

# 年頭にあたって

平成十九年元旦

滝上町長 澤田 詮一



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
新しい年を皆さまとともに迎えられることを心からお慶び申し上げます。

近年は、毎年のように例年にならない気象状況といわれ続けております。昨年も各地で自然災害が多発し、10月7日から9日にかけての台風並の低気圧の影響で、オホーツクから道東地区にかけ甚大な被害を受けたところでした。本町においても7日から9日までの総雨量は222ミリとなり記録的な大雨になりました。このため、河川の増水や山からの出水などにより住宅の一部損壊、床下浸水、農業や林業、道路・河川等あらゆる分野で被害を受けましたが、人的被害がなかったことについては安堵しているところですが、しかし、水道施設や雑用水施設の被害による断水・給水等で皆さまにご不便をおかけしたことに對しましては、申し訳なく思っているところであります。災害時の対処方法などについて、町内会や関係機関・団体等と協議し協働してその対処に努めたいと考えているところであります。

国の財政状況は未曾有の危機的状況にあり、「社会保障の全般にわたる見直し」などにより国民負担や地方負担が顕著になってきました。三位一体の改革も結果的には国から地方へと財政負担の転嫁となっており、また、どの市町村も厳しい財政運営を強いられ、財政の健全化に努めているところであり、本町の財政についても、「行財政改革実施計画」に沿って、また町民の皆さまのご理解・ご協力をいただきながら行財政運営を実施しているところであり、本町歳入の6割を占める地方交付税は平成12年度に30億円を超えておりましたが、平成18年度は21億円余りの見込みであり、しかし、町の貯金である基金は19億円余りと平成11年度以降維持させていたいただいているところであり、

昨年の農業につきましましては、4月から5月の低温、7月上旬の高温多湿、また前述しました10月の低気圧

等の影響を受けましたが、てん菜、南瓜などに品質低下がみられたものの、他の作物については土づくりの成果があつてか、前年と同程度もしくは増収となりました。

農業における昨年の主な事業につきましては、「耕畜連携資源循環型（わ）づくり堆肥保管設置事業」を実施したところであります。これにより農業振興公社の本町農業における役割はさらに大きなものとなりま

す。林業につきましては、経済財としては勿論のこと地球温暖化対策資源でもある森林を守り育てること、また未利用資源の有効活用（資源循環）を図る観点から、従来からの実施している森林整備等に加え、木質ペレット燃料の普及のため家庭用ペレットストーブの設置に対して補助しております。

観光につきましては、昨年10月に（社）日本観光協会から「花の観光地づくり大賞」を受賞いたしました。この受賞は、芝ざくらの町民植栽会を始めとして、町内会が実施している花いっぱい運動、童話村を育てる会のガーデニングコンテスト等々、地域全体を町民が一丸となって花で彩るといふ活動が評価されたのであります。

生活環境分野においては、火葬場「芳昇苑」を改築し、道路や駐車場についても整備したところであります。国・道に要望しておりました深山橋（道々士別滝上線）の架け替えが完了し、国道273号の27号橋（滝下）の拡幅については本年2月完成予定であります。

滝上高等学校存続問題については、町議会や各PTA関係者とともに道議会・道教委への要望行動や滝上を守る町民会議を開催するなどして対応してきたところであります。

また、本町は17・18年度の2カ年事業として国から「地域再生計画」の認定を受け、『「農・林・観」連携による地場産品振興計画（地域提案型雇用創出促進事業〈厚生労働省〉』に取り組んでいます。これまでも本町のような農山村は、日本の食料を支えるとともに、国土の保全・水源の涵養・地域温暖化の防止等と大きな役割を担ってきました。自然や資源の循環は今後ますます重要になってきます。既存の産業基盤をしっかりとし、その産産間が連携することによって雇用の創出にも連動することになります。滝上町はこのことが可能な地域です。「持続可能な資源循環型の地域社会」を「自助・互助・公助」の精神で構築すべきと考えます。

以上新年にあたり、町政の一端を申し上げます。皆さまにとって本年も健康でありますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。